

計 画 作 成 に 向 け た 考 え 方

第2回地域公共交通協議会に向け、資料4で示した課題を改善し、以下の3つの論点への対応の整理を進め、越谷市民のモビリティ向上を図る越谷市地域公共交通網形成計画の検討に取り組みます。

＜論点1＞ 公共交通体系・交通網の考え方

- ・越谷市の公共交通には、①都市間を結ぶ鉄道網、②広域あるいは市域内路線としての路線バス、③広くドアツードアとして運行するタクシー、④特定地域におけるミニバスの試験運行など、様々な交通システムが存在している。

越谷市の地域性や関係者による協力のもと、各交通システムや路線の役割分担、連携による公共交通体系、公共交通網をどのように構築していくか、計画の中で明確にしていく。

＜論点2＞ 公共交通カバーエリアやサービス水準の考え方

- ・公共交通による人口カバー率（駅半径1km、バス停半径300m）は約87%であるが、周辺部においてはカバーされていない地域が存在するほか、カバーされているが運行本数が少ないという地域も存在する。周辺部では高齢化率が高くなっており、高齢者の足の確保などの課題がある。
- ・民間バス路線は、一定の需要が確保できる地域や道路環境が整備されている地域において運行されているため、市の周辺部の需要確保や道路環境に課題がある地域においては民間バス路線での対応や、一定のサービス水準の確保が困難となることが想定される。

越谷市における公共交通の対応として、対象エリアの考え方、サービス水準の考え方、対象者の考え方を明確にして市民のモビリティの確保・向上を図っていく。

＜論点3＞ 持続可能な公共交通としての考え方

- ・昨年度にミニバス試験運行を新方地区で実施したが、利用状況や収支率などに課題があり、運行維持には一定の財政負担が必要となるため、今後導入地域を拡大すると財政負担が増大する課題がある。
- ・地域の公共交通を持続可能なものとするため、地域のマイバス意識の向上や利用促進なども含め、関係者の協働体制で取り組んでいくことが必要である。

市、事業者、市民の協働による公共交通の導入、維持、改善のための体制やルールづくりとあわせ、論点1、2で示した公共交通体系、公共交通網、サービス水準について取り組んでいく。